

所沢小学校



所沢市立所沢小学校

学校だより 令和5年5月 №.2

学校教育目標

○あたたかい心

○よりかしこく

○よりたくましく

マスクについて

校長 戸村 達男

4月より、学校ではマスクの着脱について強制しません、とお伝えしており、マスクの着脱はご家庭の判断とさせていただいております。マスクなしのお子さんも徐々に多くなってきているところですが、まだ多くのお子さんはマスクをつけて生活しています。

学校では、令和2年度から4年度までの3年間、子どもたちの学習機会を保障するために、新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止を優先し、原則マスク着用するようお願いしてきました。その結果、ほぼ全ての子どもたちが、3年間、マスクをつけて学校生活を送ることとなりました。

ここで方針が変わり、原則マスクは必要ないよ、と言われても、3年間マスクをつけ続けた子どもたちは、そう簡単に外せないだろう、ということは想定していました。時間の経過とともに徐々に・・・とも思っていました。

学校が始まって約2週間が経過したころ、状況があまり変わらないので、何人かの子どもたちに聞いてみました。

「マスクをはずしてもいいっていうことは知ってる？」

「知ってる。」

「でもついているのは、何か理由があるの？」

「なんとなく。」「みんながついているから」

もちろん、ご家庭で相談の上、理由があつてついているお子さんもいるかと思います。でもそうではなく、子どもたちがマスクをはずせない理由が「みんながついているから」というものであるのならば、それはあまりいい傾向ではないと考え、先日、放送で校長からマスクについて、以下のような話をしました。（要約）

- ・ マスクをするしないは、それぞれのおうちでの判断なので、マスクをつけても外してもいいのですが、原則的には、学校ではマスクは、しなくていいことになっています。
- ・ みんながしているから、という理由なら、外して大丈夫です。
- ・ マスクをとると、友だちと話がしやすくなります。
- ・ 暑い日に、息苦しさを感じたら、必ずマスクを外してください。

新型コロナウィルス感染症が5類に移行となる5月8日以降の対応については、決まり次第お知らせいたしますが、それまでは、学校のマスクに対する考え方には変更はありません。

感染の完全収束までにはまだまだ時間がかかりそうな状況の中、マスクをとるリスクはもちろん承知の上で、一方でマスクをつけ続けることによるリスクも心配されるところです。

恥ずかしくてマスクが取れない、表情を出すのが怖いというお子さんもいます。相手の表情を読み取るという能力も円滑なコミュニケーションには必要です。

学校は本来、子どもたちの笑顔があふれる場所です。うれしい時、楽しい時に、お互いの笑顔をちゃんと見ながら生活できることが本当は望ましいと考えます。

また、マスクをつけていると、怒っているのか、悲しんでいるのか、平静な状態なのか、非常にわかりにくいですが、マスクをはずすと、互いの表情が分かりやすく、しかも声も通るので、お互いのコミュニケーションがとても円滑になり、トラブルも少なくなると思います。

早くマスクなしで、子どもたちが笑顔を交わし合えるようになればいいなと、心から願います。

※今回お伝えしたかったのは、マスクをつけ続けることによるリスク、特に心理的リスクが心配されるということ。それを保護者の皆様と共有させていただきたく、今回の内容とさせていただきました。外させたいのか、つけさせたいのか、どちらともされる歯切れの悪い内容となってしまい、申し訳ありませんが、ご理解ご協力ををお願いいたします。また万が一、第9波と呼ばれるような感染拡大の波がやってきた場合には、再びマスクの着用をお願いすることもあるかもしれません。ご承知おきください。

所沢小学校の応援大使は・・・

所沢市を本拠地とする埼玉西武ライオンズの「応援プロジェクト」。

所沢市内の全小学校32校に、それぞれ応援大使を任命し、ライオンズの選手と各学校、児童との接点を作り、地元への愛着心やスポーツへの関心を育むことをねらいとしています。

所沢小学校の応援大使は、WBCで大活躍した「源田壮亮選手」と、熊本県出身のキャッチャー、「中熊大智選手」。お二人の等身大パネルは、職員玄関と校長室前に置かせていただいています。

もしかしたら、シーズンオフには、所沢小学校を訪問、なんていうこともあるかも。楽しみですね。



シンデレラ拭き ご存知ですか

所沢小学校の子どもたち、自慢できるところはたくさんあるのですが、そうじがとっても上手なのも、その1つです。本校は、「もくもく（黙々）そうじ」といって、おしゃべりをしないでそうじをすることになっているのですが、授業中かと思うくらい、静かにそうじをしています。また、床の拭き方は「シンデレラ拭き」。本当に丁寧に掃除してくれています。

諸外国には、そうじを子どもたちにさせていない国もあります。また、子どもたちに掃除をさせることについては賛否両論あることも承知しています。

でも、自分たちの使う場所を自分たちでそうじする。自分たちでそうじするからこそ、汚さないきれいに使おうとする。サッカーワールドカップなどで試合後に会場をきれいにする日本人が世界から称賛されるのも、学校での清掃活動の教育的効果なのではないか。私はそう思っています。

